

# 情報ぎやらりー

広がれボランティアの輪



**NO.53**

2011年1月号

編集・発行 NPO法人グループわ（西田圭一）  
〒651-1102 神戸市北区しあわせの村 シルバーカレッジ内  
TEL078-743-8101 FAX743-3830 HP <http://www.wa-net.jp>

鮮やかに色づいたしあわせの村でバードウォッチング（撮影・南形徹）



## カラフル 秋色の野鳥探訪

カラフルに色づいたしあわせの村で、野鳥を観察しようという催しが10月21日、家族連れら50人が参加して開かれました。ぼかぼかの小春日和の中、3グループに分かれ、芝生広場 - 鎮守の森 - オートキャンプ場 - 堂坊池へのコースを約2時間かけて散策。「あっ、オオタカがいた」「カケスが鳴いている」。双眼鏡をのぞきこみ、おしゃべりがはずみず。正午には芝生広場に戻って、観

察できた野鳥をチェック。ある参加者は「意外にたくさんの鳥たちがいるんですね」と驚いて

いました。この日は、野鳥と自然観察会の12人がコース案内や解説を担当。茅中英一代表によると、24種類もの野鳥が見られたそうです。



ジョウビタキ 野鳥観察会提供

今号の誌面

座談会 「楽しいイベントをやろうよ」 p2・3

生物多様性フェアを開催 P4・5

花山小で伝統文化体験教室 P6

エッセー「ボランティアの心」 P7

垂水会に地域活動賞 P8

カレッジだより・WA短信 P10~12

1月~3月のイベント案内 P13

目次の頁へ

1

次頁へ

# 楽しいイベントをやるうよ

## 新春ぶっちゃけトーク

夏祭りや工作塾、山歩き、Xマス.....グループわは、子どもたちや市民、会員を対象に四季を通じてさまざまなイベントを提供しています。ボランティア活動としてのイベントはどうあるべきか。魅力あるイベントとは何か。わ本部事業担当の理事3人が、1年間を振り返って、イベント企画の現状と課題、これからの夢を大いに語りあいました。（写真は楽しいイベントをやるうと意欲に燃える一森・道満・岸本=左から）

出席者 岸本 清（生環14） 一森美代子（福祉12） 道満 俊徳（生環13）

### 年にざっと36件

道満 わ本部が主催したもので、この1年間にざっと36件のイベントをやっています。それらを振り返って、一番印象に残ったイベントはなんでしょうか。

岸本 やっぱり国際免疫学会の伝統講座（8月）かな。文化部会、国際部会、わ本部も総動員でした。140人もお客さんが来てくれたし、スタッフも毎日楽しそうにやっていた。事業担当になったばかりの私にとって、いい勉強になった。

一森 そうですね。私自身も参加していて、とても楽しかった。わいわいストリート、村の夏祭り、工作塾もたくさんのファミリーが来てくれ、大賑わいだった。（一同うなづく）

道満 かえっこバザールや国際学会では、常盤大もスタッフとして加わってくれ、運営面で幅が広がった。今後の運営の参考になる。逆に、主催者として反省点が残る、改善すべきイベントはありますか？

一森 うーん。むずかしい。人数だけでは割り切れない。未来館など動員はできないが中身はしっかりしている。フルーツパークや水の科学館など、先方の依頼でやっているものもある。

岸本 予約参加とフリー参加のイベントでは、雰囲気、質がずいぶん違う。フルーツパークなど、フリー参加の場合は、スタッフと参加者との一体感が乏しい気がする。参加数が予測できないので材料などの準備もむずかしい...

一森 現実には、参加者十数人というものもある。スタッフも落ち込みます。ここはシビアに改善の手をうたないと.....



### PRをもっとうまく

道満 わの弱いところは、PR方法が下手な点。いい企画だと思っても広く周知する手段がない。

岸本 “顧客名簿”はあるが古いし貧弱。これだけで人は集まらない。マスコミや自治体の広報紙をもっと利用したいですね。

一森 イベントの参加者にアンケートを取るとか、次回のチラシを配るとか。サークルに協力を頼んだり、児童館などに掲示をお願いする方法もある。

道満 今は、電子メールや携帯メールで流すことも考えないと。

岸本 常盤大とは一緒にやったことがあるが、親和女子大や神戸女子大も巻き込めないかな。若い女性の目線や気配りは、子どもたちにも喜ばれる。

道満 ところで、わの事業は何のために、どういうコンセプトでやればいいのか。私は健康増進、環境保全、伝承文化を重視してやってきたが。

一森 私は 他のために がすべての根っこにあるべきだと思いますよ。



## 子供と高齢を重視

岸本 これからは、子どもと高齢者対象の事業に絞っていくべきでしょうね。それと、国際学会などでの伝統文化紹介イベント。これは、わの総力をあげてやるわけで、KSCの実力をみてもらい、PRもできる絶好の機会になる。

道満 事業をやる以上、拡大・充実させる努力をすべきでは。健康関係を見ても、森林浴だけではさびしい。

岸本 いや、手を広げすぎるより、できる範囲で中身を充実させる方がいいと思う。

一森 毎年やっているから、という理由で続けている事業も多い。少し整理したほうがいいものもある。一般市民ばかりでなく、会員を対象にしたイベ



双眼鏡を手にバードウォッチング（村内で）

ントも充実させたいですね。

道満 今後、企画・運営にあたってわれわれ担当者が留意すべき点はなんだろう。以前は、担当者個人がいくつかのイベントを受け持ち、事前交渉から実施まで一切をやっていた。今は、事業部としてチームで動くようになってきたが、経験が充分生かされているとはいえない。

岸本 イベントが終われば反省会を開き、次のイベントに生かす、という組織として当たり前のがなかなかできない。今後は、この点を重視したい。

一森 そうやね。反省会・勉強会は必要です。そこで、どこを改め何をなくすかという話も出てくる。

## ニーズを生かして

道満 じゃ、どんな企画を増やせばいいのだろう。

岸本 「子供に見せる」ではなく「子どもにやらせる、作らせる」物づくりの企画をふやしたい。それと、「こんなイベントをやってほしい」という子供たちのニーズを汲み取る努力も必要だ。

## 好評だったイベント

子供わいわいストリート（5月・村の芝生広場）  
国際学会での伝統文化体験教室（8月・ポーアイ）  
しあわせの村夏祭り（8月・芝生広場）  
夏休み工作塾（8月・村の研修館）  
秋のバードウォッチング（11月・村内）

道満 イベント会場でアンケートを取るとか、FAXでリクエストしてもらうくらいは、すぐできる。

一森 やる側が楽しめる企画が一番。名札作りで「お母さんありがとう」と書いた子がいて、こちらでジーンときた。子供の時やったことは生涯忘れない。そういうチャンスを与えてあげるようなイベントをやりたいですね。

道満 そんな企画にプラスアルファとして 食をくっつけると楽しいですよ。

一森 しあわせの村の自然環境はすばらしい。写生会とか昆虫採集、バードウォッチングなんかはグループわの、特色になると思う。

岸本 運営に当たっては、どんなことができるのか、自分たちの能力、スキルを見極めることも必要だし、顧客名簿みたいなものを自前で増やす地道な努力もしないと。

道満 忘れてならないのは、たくさんのサークルやOBの皆さんのおかげでイベントが実施できていることだ。企画などにもサークルの提案、意見を生かすようにしたい。

一森 お手伝いくださるスタッフをどこに頼むか、という問題も大きい。文化部会の一部のサークルに偏っている面があるので、地区会などをお願いすることをもっと考えてもいいですね。

道満 事業をやっている楽しいことはなんですか。自分の企画したイベントに、たくさん人が集まってくれるのは気分がいいものですが。

## スタッフの楽しみ

岸本 なんといっても、子どもたちとの触れ合い、笑顔ですね。「よかったよ。ありがとう」のひと言で疲れも吹っ飛びます。

一森 子どもたちに先生って、呼ばれるのは照れくさいけど嬉しい。（笑い）

道満 やってよかった。参加してよかった と参加者やスタッフに満足してもらえらるような、楽しいイベントをめざして、これからも頑張りましょう。

（この座談会は22年12月7日に実施。 広報担当・南形徹がまとめたものです）

# 里山・ため池・野鳥...OBら多彩な発表

## カレッジで生物多様性交流フェアを開催

COP10にちなんだ「生物多様性交流フェアIN KSC」（シルバーカレッジ主催、グループわ・神戸市環境局など共催）が10月29日、生環コース1～3年や卒業生ら300人が参加して開かれた。午前中の基調講演につづき、午後には6つの分科会で研究発表があり、ロビーでは生き物写真が展示されるなど、カレッジ中が“生物多様性ムード”に包まれた1日となった。（30日に予定されていた六甲エコハイクは、台風14号の接近で中止）

### “八百万の神” = 共生の思想

カレッジホールでの基調講演は「生物多様性と私たちの暮らし～みんながつながりあって生きている～」のテーマで中瀬勲氏（県立人と自然博物館副館長）が「日本には大昔から“八百万の神”の思想があり、“共生”ということが自然に受け継がれ、芸術や文化の世界でも生かされてきた。生態学からいえば、歴史的なタテの繋がり、同時代の横の繋がりでは生物は進化を続け、現在の姿がある。たとえば、コウノトリは多くの生物がいないと生きていけない。野生復帰の試みは、市民や専門家が連携し環境づくりからしなければならぬ。生物多様性の保全というが、大変な努力が必要なのだ」と熱弁をふるった。

この後、「生物多様性神戸戦略について」と題し、武田義明氏（神戸大大学院教授）が現状を報告。「生物多様性の保全、遺伝資源の利用などをうたった国際条約（1992年）に基づき、95年に「国家戦略」がたてられた。この中で、地方自治体・企業・国民の参画が求められ、各自治体でも「戦略」作りが始まり、現在、兵庫県・名古屋市など11自治体で制定されている。神戸市も六甲の自然を市民の共有財産として守ろうと、行動計画を策定中だ」と述べた。

### 卒業生らが研究・体験報告

分科会では食と農、野鳥などカレッジ卒業生が取り組んでいる身近な研究について発表があった。分科会の後、懇親交流会が開かれ、各ナビゲーターが分科会の内容を報告。参加者から「生物多様性について多角的に学ぶことができた。今後の研究にいかしたい」などと感想が述べられた。最後に、交流フェアの責任者である北尾進氏（生環コーディネーター）が「COP10の年に、皆さんの協力を得て意義ある催しをすることができた。まずまず成功だったと思う。この経験を生環コースのカリキュラムに生かしたい」と締めくくった。この席で、第6分科会の発表者・西谷氏から「空と海の約束」の紙芝居2セットがグループわに寄贈され、長谷川・副理事長は「学習支援活動で子供たちに



見せたい」とお礼を述べた。

【分科会の発表内容】（ ）内は参加数。

セッションのテーマは「里山保全と活動」（62人）。司会は谷口博氏（生環サポーター）。大谷敏行氏（生環11）は、篠山市大山新地区でH15年から始めた里山整備の活動ぶりを発表。道満俊徳氏（生環13）は、里山和楽会が北区山田町の「かがやきの森」で進めている里山活動を紹介した。谷口氏からは「グループわが5年がかりで取り組むことになった村内の里山整備について、ぜひ参加してほしい」との呼びかけがあった。

セッションは「食と農」（93人）。司会は土井敏男氏（環境局）が務め、土井氏と瓜生隆宏氏（県土地改良事務所）、辻村允夫氏（生環8）が、「農業が生物多様性を支えている」との観点から、農業から得られる多くの恵み、農産物の生産性や経済的側面について発表した。小川氏は、小川の生き物からみた食物連鎖、環境保全について語った。

セッションは「野鳥の保護」（28人）で井上清仁氏（野鳥の会ひょうご）が司会。茅中英一氏（生環11）は、しあわせの村内で行なっている巣箱を利用した野鳥の保護活動について発表。北野光良氏（市立湊川中学校）は、コウノトリやトキなど厳しい状況に置かれている鳥について語った。



## 生物多様性交流フェアに取り組んで

生環コース：コーディネーター 北尾 進  
10月29日の「生物多様性交流フェア」は、卒業生の方々など多くの皆様のご支援と300名のご参加を得て無事終えることが出来ました。本当にありがとうございました。

今回の取組は、シルバーカレッジと神戸市環境局で協働の取組をしようとのお話が以前からあったものを具体化したものでした。でも、不手際もあり、多くの皆様にご迷惑もおかけしてしまいました。申し訳ございません。

この取組の意義は、いくつかありました。一つは、シルバーカレッジを卒業された後も、様々な活動や研究をされている方々が多くおられます。それらを在學生に伝えていただき交流を進める。二つ目は、シルバーカレッジに1人でも多くの市民の皆さんにお越しいただき「生物多様性保全」に対する思いや経験の交流を進め神戸での活動の発展に貢献する。三つ目は、在學生の皆さんの生物多様性についての認識を深め、この活動に1人でも多くの学生の皆さん

が参加するようになっていただきたいということでした。これらについては、「よかった」「卒業生の活動を知ることが出来た」「今日の取組でグループ学習

のチームがまた活気づいた」とかの声も聞かれるように、決して十分ではありませんが、新しい、大切な一歩を踏み出すことは出来たと思います。

でも、課題もたくさん見つかりました。一つは、中身がたくさんあり、少々ご負担をおかけしたようで、多くの方々から「時間がもう少し欲しい」との声があったように、中身の豊富さと時間とのバランスを欠いていたこと。二つ目は、当日に向けてカレッジの授業を効果的に構成できていなかったこと。三つ目は、講師や司会者等の打ち合わせが十分に出来ていなかったこと。四つ目は、「交流会」に在學生の参加が少なかったことでした。

今回経験したことを踏まえて、可能であれば是非とも来年度も「交流フェア」を実施できればと思っています。そして、「カレッジ」を卒業すれば「はい、さようなら」ではなくて、卒業生と在學生、それに市民との交流を広げていく「場」を多様なメンバーが力を合わせて創りたいと考えています。今度は、もう少し時間等をかけて丁寧に……と。



ローリーなどの掲示写真



セッション は「ため池から考える」(17人)。菅田忠志氏(生環11)が司会。大嶋範行氏(環境局)は、兵庫県には4万か所ものため池があり、全国一多いこと。里山や森林と同じく、ため池は動植物の宝庫であるが、近年は荒廃が進んでいることなどを紹介した。田下日順氏(生環10)は藍那地区のため池の保全活動について発表。現役の力を貸してほしいと呼びかけた。

セッション は「ビオトープ活動」(10人)。戸田耿介氏(生環サポーター)が司会。三島隆夫氏(生環8)は、環境未来館のビオトープ(未来の泉)について報告。6年前に建設する際は盛り上がったが、世話をしたり、外来種を駆除したりする維持管理が

むずかしい。小学校にあるビオトープの支援に乗り出したい、などと語った。金下玲子氏(阪神・都市ビオトープフォーラム)が小中学校111校にあるビオトープの現状・活用について紹介した。

セッション は「環境教育」(39人)で松本朱実氏(動物教材研究所)が司会。南形徹氏(生環14)はグループ学習で制作した子供向けのお話ビデオ「ノリカちゃんとコウノトリ」を上映、食育の大切さを訴えた。藤原昭宏・高島忠義氏(生13)は身近な野草を採取して作った図鑑や野草カルタを披露。西谷寛氏(市職員)は「空と海の約束」という絵本を自費出版し、保育所や児童館に寄贈する自らの活動を紹介した。(取材とまとめは、広報・南形徹)

## 活動レポート



### 花山小で伝統文化にチャレンジ

北区の花山小学校で12月2～3日、6年生80人を対象に「日本文化の体験教室」が開かれました。着付け・銭太鼓・大正琴・和菓子づくりにチャレンジしてもらおうと、グループわのスタッフ（のべ30人）がお話と指導にあたりました。子どもたちは2種目を選び20人ずつに分かれて学習します。

着付け：今や着物は結婚式や七五三など、特別の場合に限られ、日常生活はほとんど洋服です。子どもたちには4種目の中で最も難易度が高かったのではないのでしょうか。でも、自分の好きな着物を選んで着付けをしてもらおうと気分も高揚するのか、「龍馬みたい」、「お姫様みたい」とはしゃいでいました。傍から見ても、とてもかわいらしく、華やかでした。 おはぎを作る男子児童・渡邊佳視撮影



銭太鼓：驚いたことに、ソーラン節と鉄人28号の振り付けを60分ぐらいで覚えてしまい、指導のメンバーもびっくり。バチさばきも難しそうでしたが、一番つらそうだったのは正座のようでした。スタッフからは、銭太鼓の由来や、なぜ5円玉が入っているのか、などの話があり、興味深そうに聞いていました。

大正琴：「もみじ」「ゆうやけこやけ」などを練習をしましたが、子どもたちは目を輝かせながら一生懸命で呑み込みも早く、発表会では見事な演奏を披露してくれました。「指が痛かったけど、ほめられてうれしかった」と満足そうでした。

和菓子作り：4～5人のグループに分かれ、「さつまいも入りのおはぎ」作りに挑戦しました。家では、包丁を使ったことがない男子生徒も神妙な

## 私のボランティア日記

園芸10期

塚本桂三

2006年から地域の小学校へ車椅子で通学している女子児童の介助ボランティアに携わっています。最初に出会った時は2年生でした。休み時間に運動場に移動する時は、先生が1階までおぶって下ろし、移動していました。現在はエレベーターが設置されたので先生の手は借りずに済み、だいぶ楽になりました。

その子は、筋肉に力が伝わりにくい状態で、車椅子から教室の椅子に移動する際も非常に時間がかかります。低学年の頃は余り喋らずに指で指示をしていましたが、4年生ぐらいから言葉で意思を伝えてくれるようになってきました。子供なりに遠慮していたのかな、と思ったので、「なんでも自分のやりたい事があったら遠慮せずに言ってよ」と言うところり頷いてくれました。やっと意思の疎通が出来たと思い嬉しくなりました。今は6年生になり、成長著しく大人っぽくなってきましたので、介助も一段と気をつけています。春には中学校に進級します。早く病気が回復するように祈っています。

面持ちで皮をむいたり、あんこを練ったり。自分たちで作ったおはぎの味は格別らしく「うまい。おいしい」。わいわい言いながら試食していました。

2日間を通して見学しましたが、子どもたちに伝統文化を体験させるのはとてもいい試みだったと思います。子どもたちも「やさしく教えてくれてありがとう」と口々に感想を述べていました。

（取材 広報委員・宮里寿子）

### 車椅子の人たちとジャムづくり

村内で採れたブルーベリーでジャムを作ろう という催しが11月18日、カレッジ調理室で開かれました。毎年この季節、身障者施設・明友の人たちを招き一緒にジャム作りを楽しむものです。今年は15人を招待。サポート役は銀の匙と園芸8期ブルーベリーグループの皆さん。6台のテーブルに用意されたブルーベリーと砂糖を鍋で煮てしゃもじでかき回す作業です。「熱いから気をつけて」。車椅子から恐る恐る手を伸ばす人たちの表情はニコニコうれしそうです。約30分でできあがり。小瓶に分けた70個を試食したり、お土産にしたり。「味は上々」ということですが、園芸の皆さんの話では、今年は猛暑で世話が大変。収穫も少なかったそうです。



# ボランティアの心

## 野に咲く花のように

私のボランティア活動のきっかけは、15年前、須磨区であった児童の痛ましい事件後、心に傷を受けた子供達を励まそうと、コーラス部有志が始めた活動に参加したことだった。その後、同区内の老人介護施設にコーラス部として組織的にボランティアを始めたことを皮切りに、他の介護施設でも定期的に活動することになった。体制作り、先方との折衝等、未経験の試行錯誤の中で、現在のペースが出来たと思う。

現在はグループ“わ”からの依頼による活動が中心。活動は広がり、ある施設内のグループホームにて少人数で行うことになった。ここは比較的軽い認知症の人が多く、懐かしい童謡、唱歌、歌謡曲の歌詞カードを渡して一緒に歌っている。チームの一員に往年の歌手のビデオ映像を持っている人がいて、その日のプログラムに合わせた映像を見ながら楽しんで貰っている。

一方、フォークダンスボランティアは、保養センターひよどりのグリーンスクール講師を引き受けてから始めた。また垂水区内震災復興住宅で教

えていたフォークダンス部指導者が、病に倒れ急遽その代役を引き受けた。さらに、その住宅の生活支援員（神戸市介護福祉施設職員）と知り合い、これが縁となって高齢者支援活動（介護予防）の一環として、フォークダンスを教えることになり、継続している。“わ”を介した依頼で、須磨区内老人クラブにも対応している。いずれも対象が高齢者で、運動機能が衰えているので、それに合わ



せること、相手の目線で指導することを常に心がけている。

コーラス、フォークダンス共に伴奏曲の入手には苦労している。これも独学で始めたパソコンが役立っている。他にも一時マジックボランティア

もしていたが、体調を崩して中止した。ボランティアによって相手が生き生きとされる姿を見ることで、自分も元気を貰うことができ、日々充実感を味わっている。ダ・カーポの曲「野に咲く花のように」の一節の“野の片隅に咲く花が人を爽やかにする”……でありたいと願っている。

釜田 弘（国際3）（写真は活動中の釜田さん㊦）

## マジックの祭典にぎやかに 社協からの感謝状 花添える



第8回「マジックの祭典」が11月17日、たんぼぼホールで開かれ、卒業生と現役が日ごろ磨いた妙技を披露、交歓のひと時を過ごしました。今回は、KSCマジッククラブ（卒業生）に社会福祉協議会から感謝状が贈られたこともあって、お祝いモードの祭典となりました。

出演は現役のマジック同好会も加わり総勢36組・

41人。黒いハットに赤いタイ、ドレス姿の女性も混じって華やいだ雰囲気。円熟したOBの妙技あり、17期生の力づよい演技あり、あっと驚く大技あり。拍手と驚きの不思議ワールドが3時間にわたって繰り広げられました。客席のOBは「例年より充実しているね」と満足そうでした。（写真は同クラブ提供）

感謝状は9月15日、神戸社会福祉大会でマジッククラブ・森田明朗代表に手渡されました。高齢者施設や病院、児童館などへの慰問活動を14年間にわたって続けてきた功績によるものです。慰問活動は同クラブが発足した平成8年に始まり、現在は5、6人ずつのグループで年間70回ほど出かけています。個人的に頼まれることも多く、月に数回活動している会員もいるそうです。現在、卒業生のマジッククラブが50人、現役のマジック同好会も50人ほどの会員がいて総勢100人の集団です。「マジックは交流のツールとして最高。皆さんに喜んでいただける限り、慰問活動はもっともっと続けますよ」。森田代表はやる気満々でした。

# 垂水会に地域活動賞

福田川などで清掃13年

町の清掃奉仕13年間続けているシルバーカレッジ垂水会（秋山雄一代表）に11月11日、神戸市から平成22年度の「地域活動賞」が贈られました。同会は平成9年に結成され、会員は205人。親睦と共にボランティアを活動の柱に掲げ、福田川やJR舞子駅周辺の清掃、舞子公園の観光ガイド、垂水養護学校への支援など幅広い活動を続けてきました。今回の表彰は、こうした永年の地域奉仕活動の功績が認められたもので、相楽会館で行われた表彰式には秋山代表



が出席しました。「先輩たちが続けてきた努力が認められて嬉しい。これからも町づくりのお手伝いができれば」と話しています。（写真は福田川清掃に取り組み垂水会員）

## 投稿

### 老人会の在り方

私は現在、北区広陵町という町の老人会の会長を務めていますが、「情報ぎやらりー」10月号のコラム つぶやき の「老人会に思う」を読み愕然としました。なんと老人会に対する偏見というか、余りにも皮相的な見解に憤慨する以前に情けない思いを禁じ得ませんでした。

ご指摘のとおり、老人会も社会の一員として社会に貢献する活動をするのは当然の事であり、私達の老人会も、小学生の登下校の見守り、地域の公園清掃、老人ホームの慰問等、種々の社会活動を行っています。その一方で年々



進むメンバーの高齢化に悩んでもいます。因みに私達の老人会は168名という大所帯ですが、その平均年齢は、女性79歳、男性78歳と超高齢者の団体であります。元気な老人会の活動に参加される会員も多数いる反面、配偶者を亡くし一人暮らしで、病弱な会員も少なくありません。

このような会員にとって、最も必要な事は心の張りを失わず、身体を少しでも動かして戸外へ出での仲間との交流であります。老人会はカラオケ、グラウンドゴルフ、輪投げ、囲碁等、その人の参加できる集まりや、機会を作り、心身ともに元気よく、孤独にならないような取り組みに努力しています。

社会奉仕に精を出せる会員、自立のためにカラオケやグラウンドゴルフに参加しようと努力する会員、この人達を両立させてこそ地域が必要とする老人会

### 皆木さん、瑞宝双光章を受章

東灘区会員・皆木喜一さん（美工9期）は11月12日、皇居豊明殿で天皇陛下に拝謁し瑞宝双光章を受章されました。神戸市職員として40年間、災害防除のための危険業務に携わってきた功績が認められたものです。これまで神戸で発生した幾多の災害に、身を挺して取り組んでこられたということです。現在は、絵画教室やシルバーカレッジの絵画クラブなどで美術を教え活躍されています。皆木さんは「市民の安全を守るという仕事が評価されて嬉しい。今後はシルバー世代に、安全な暮らし方のアドバイスをしたい」と話しています。（東灘区会 ・長谷

と言えるでしょう。

若者を指導したり、日本の将来を考える事も大切ではありますが、それ以前に他人に迷惑をかけずに自分の事は自分でできるお年寄りを一人でもふやす身近な活動こそが、老人会にとっては、より必要だと考えています。これこそがSCで学んだ「共助」の実践ではないでしょうか。（福祉1期 塩田義人）

### 「あーと14」が作品展

14期生の絵画同好会「あーと14」が、村の本館2Fギャラリーで第1回作品展（12月13日～19日）を開きました。19人が油彩・水彩など33点と陶芸作品を展示。友人や絵画ファンが連日訪れ、作品を見ながら談笑していました。同好会は22年春、結成されたばかり。メンバーが8か月かけて描きためた作品を持ち寄ったということです。



## 環境未来館 ビオトープ物語 ①



### 未来の泉 を魅力的に

今回は、ビオトープ 未来の泉 をどう育てていくか、今後どういう活動をしていくか、について触れておきましょう。

ビオトープの維持管理には多くの人手と時間が必要です。広く市民に呼びかけ、サポーターを増やしたいと思えます。神戸市が取り組んでいる「水辺ネットワーク」への参加も検討しています。神戸市内の小学校には100箇所ほどビオトープが設置されていますが、きちんと管理され、機能している所は少ないようです。こうした小学校のビオトープ管理のお手伝いをするのも、大事な活動目標です。アメリカザリガニ、ブルーギ



ルなどを絶対に入れないといったことや、雑草取り、水の管理といった日常的な助言も必要でしょう。要望があれば、メダカやドジョウを譲ってあげて増やすことも考えています。未来の泉では、3月に100尾放流したカワバタモロコ（コイ科の魚で絶滅危惧種）が、数百匹にも増えています。“供給”することも

可能なのです。池の周りに生垣を設けたり、巣箱を架けたり、ガガブタ・ジュンサイ・タコノアシなどの水生植物を植えたり、未来の泉をより魅力的に整備することも着々と進めています。

未来館全体の見学者、リピーターを増やすことも課題です。池で魚採り体験をしてもらう、ペットボトルでおもちゃ作り

を体験してもらう、といったメニューを用意して市内の小学校などに呼びかけます。未来館の入館者がふえれば、ビオトープへの関心も高まるからです。

（グループわ・三島隆夫）= 写真は未来館提供

## 里山助成金 活用内容固まる

### チェーンソー、炭焼き窯など購入

グループわに、交付されることが決まった平成22年度「里山ふれあい森づくり（住民参画型）助成金」（350万円）の活用について、プロジェクトチームで検討を進めていましたが、このほど、その内容がほぼまとまり、交付申請の手続きに入りました。認許されれば近日中に里山整備機材・利活用施設の購入・発注をしていきます。おもな内容は次のとおり。

里山整備に必要な資材機材関連 = 山林用チェーンソー3台、刈払い機2台、多目的ウィンチ1組、山林用のこぎり、

鎌、なた、チップーシュレッダー（5馬力）1台、安全講習受講費、物置ほか。

里山利活用施設関連 = 里山内設置テーブル・椅子セット1組、樹木名札表示資材、野鳥観察用説明看板1組、小形炭焼き窯1台など。

これらの機材で活動を始めます。『自然体験学習の森づくり』や『木炭・竹炭を使ってしあわせの村の池・小川の水質浄化作戦』などに取り組みたいと思っています。実際の作業はかなりの人手が必要で、みなさんの応援をお待ちします。（問い合わせはプロジェクトリーダー・菅田忠志まで。 792-5811）

### 中央区会が旧居留地ツアー

中央区では第1土曜日に定例会を開いていますが、12月は早めに切り上げ、旧居留地の見学ツアーをしました。参加者は10名。案内役は観光ボランティアをされている藤井さん。よく勉強されていて、説明も判りやすく、神戸で生まれ育った私が知らないことも多く、新たな発見をすることができました。

大阪商船ビルの建物を見て、外国航路の無線技士をしていた義理の祖父の船が、出航するたびに、見送りに行っていたことを懐かしく思い出したことでした。地下鉄みなと元町駅も利用するたびに、「変わった建物だな」と思うくらいでしたが、明治に建てられた第一銀行の外壁の一部を使っているというお話を聞いてびっくり。神戸っ子の私にも楽しい見学会でした。（生環9期 手島道子）

## 2月に地域交流と文化の祭典

グループわ文化部会が2月19日（土・10時～15時30分）、シルバーカレッジで「地域交流と文化の祭典」を開催します。入場無料。14サークルと星和台、泉台の地域グループが参加。ホールで合唱・手話コーラス・民謡・大正琴・ハワイアン・銭太鼓・マジック・南京玉すだれ・紙芝居などのパフォーマンスを披露するほか、ロビーでは手芸・折り紙・書道作品の展示をします。地域社会との交流をめざそうと文化部会が初めて取り組むイベントです。

## カレッジだより



### グループ学習テーマ決まる

3年生のグループ学習のテーマが決まり、情報誌「爽風」12月号で発表されました。概要は次のとおり。【福祉文化】7グループが12月16日に発表。公園や人生、音楽などをテーマに取りあげています。【食文】4グループが12月17日に発表。大豆や酢、郷土料理がテーマになっています。【国際】11グループが12月20日に発表。チベット、モンゴル、タイ、ベトナムなどアジア圏をテーマにした研究が目立ちます。【生活環境】12グループが2月4日に発表。水や温泉、たんぼ、ゴミ、町づくりなどテーマは多彩です。【園芸】3グループが2月4日に発表。ピーマン、ナス、トマトなどの栽培を試みます。【音文】全員の合唱と和太鼓、パーカッションの演奏を2月22日に披露します。【美工】4グループに分かれ陶板、絵馬の石膏型、筆置などを製作します。発表会は2月22日。

### 津軽三味線とオルゴールコンサート

ジョイラックデーの11月24日、カレッジホールで津軽三味線コンサートが開かれ、「津軽よされ節」などを華麗なバチさばきで披露。満員の聴衆を魅了しました。出演は津軽三味線の小林史佳さんや神戸市在住の須藤栄雲さんら。音文16期生が企画、1年がかりで実現させたものです。

この日、音楽室ではクラシック同好会（南春人代表）がオルゴールコンサートを開催。アンティークの大型オルゴールなど10台が持ち込まれ、「ラ・カンパネラ」やバッハの「平均律」が演奏され、90人を超す音楽ファンを楽しませてくれました。チェロの独奏、同好会とKSC器楽アンサンブルによる演奏も行われました。

**お礼** 津軽三味線・津軽民謡コンサート実行委員会（森孝介委員長・音文16期）から12月15日、グループわに、コンサート運営の剰余金7352円の寄付がありました。活動資金として活用させていただきます。

### 白井操先生のレシピで

#### 男料理を作ろう 参加者募集

テレビでおなじみの白井操先生（カレッジ食文専攻講師）のレシピで男性クッキングにチャレンジしませんか。食文専攻の卒業生が親切にサポートします。

3月25日（金）、4月1日（金）、4月5日（火）の3回連続の実習でいずれも10:30～13:30。シルバーカレッジ料理実習室。参加費4000円（3回分、食材

### グループわ「情報ぎやらりー」に 新しい名前をつけて下さい

読みやすく、親しまれる情報誌に 51号から「情報ぎやらりー」のリニューアルに取り組んでいますが、その一環として、「情報ぎやらりー」というネーミングも新しくしようと、会員の皆さまから公募することにしました。ボランティア団体であるグループわにふさわしい、誌名をつけてください。新誌名は55号（7月号）から使用の予定です。

#### 【応募規定】

- 1) 誌名は、簡潔で、ボランティア団体グループわのイメージにふさわしいもの。文字デザインも歓迎します。作品の意図を簡単に付記してください。
- 2) 締め切りは23年2月10日（木） 氏名・期生・連絡先（電話・メルアド）を明記のこと。
- 3) 作品送付先＝わ事務局へご持参いただくか、FAXでわ事務局へ FAX 078-743-3830 または電子メールで「情報ぎやらりー」へ wa\_gallery@wa-net.jp
- 4) 第1次選考＝広報委員会で投票により、応募の全作品から上位10～20作品を選出。
- 5) 第2次選考＝第1次選考の作品から、優秀5作品を選考委員の投票により選考し、さらに選考委員の推薦により最優秀作品を決定。同一作品が複数あった場合は、抽選により決定。

最優秀作品＝1人（新誌名に採用）図書券10000円  
優秀作品＝4人 図書券3000円

- 6) 発表＝ぎやらりー54号（4月号）誌上およびカレッジ1階 わ の掲示板に掲載。
- 7) 選考委員 南本伸一氏（福祉振興協会）  
松井幹夫氏（カレッジ事務局） 西田圭一氏（グループわ本部） 茅中英一氏（部会推薦）  
土井昭政氏（地区会推薦）  
幹事（広報委員会） 南形徹・徳原尚世・宮里寿子  
応募作品名（意図を簡単に説明してください）  
」（複数応募も可）

込み）。葉書かFAXで住所・氏名・年齢・電話番号・調理経験の有無を記入のうえ、下記へお申し込みください。3月1日から先着32人まで、受け付けます。参加者には後日、実習案内をお送りします。

申込み先 〒651-1102 神戸市北区山田町しあわせの村 シルバーカレッジ内 グループ わ 男性調理実習係 FAX078-743-3830 お問い合わせは、078-743-8101 グループ わ まで。





## 戦争の語り部 どうつなく

22年度の第3回学習支援の集いが10月26日、シルバーカレッジで開かれ登録者30人が参加しました。加藤委員長・川上副委員長が「1学期は55校から支援要請があり、対応できたのは30校（61%）だった」と活動の現状を報告した後、2人から体験発表がありました。阿部公晴さん（国14）は東灘区の小学校でフィリピン人学童の通訳（英語）をしており、英語学習にも積極的に協力していることを話しました。長谷川 つや子さん（国16）は垂水区の小学校で、特別支援児童の給食介助をしています。幼時につらい思いをした自身の体験を生かし、今のボランティアをしていることを語りました。

今回は、学習支援者の拡大という従来のテーマのほか、「戦争と平和学習」の“語り部”をどう継続するか、という課題も話し合われました。自治会の老人クラブなど、グループわ以外から講師を頼めないか 現在の活動内容をビデオ教材にして活用できないか などの意見が出され、今後、具体化することになりました。



布ぞうり作りに挑戦 環境未来館のエコスクール11月13日のは3R（リデュース・リユース・リサイクル）大作戦。約60人が参加。この日の目玉は、布ぞうり作りです。昔遊びのメンバーの指導で古布を使ってぞうりを編むのですが、子どもたちは車座が苦手。1時間ほどの作業でしたが「腰が痛い。ぎっくりや」と悲鳴をあげていました。=写真

### 子ども応援フェスタ 46人が協力

40回目となる「子ども未来応援フェスタ」が10月29日～30日、神戸勤労会館（中央区）で開催され、チャリティーバザーでは昨年の79万円を上回る81万9950円の売り上げがあり、福祉資金の一助にすこ

## 私のボランティア日記

福祉10期 高木良治

『土とあそぼう』というネーミングで、児童館で、学童保育の子どもたちとプランターを利用して、野菜や、花などを栽培している。KSCグループ学習（こどもあそび塾）の時代から続いている活動。ビニールシートの上でプランターをひっくり返し腐葉土や肥料を入れて土を再生し、苗を植え、種を播く。土の中には季節に応じていろいろな生き物がいる。怖がる子供、捕まえてビニール袋に入れる子供、土を混ぜながらわいわいがやがや。春はイチゴ、夏はミニトマトなどの収穫にっこり。雨の日は作業が出来ない。その時は折り紙やブンブンゴマなどの遊びをする。メンバーはむかしあそび研究会の会員でもある。

11月は前半の時間、神戸シルバー大学院のTさんグループの紙芝居『山となかよし・木となかよし』を見せてもらった。30数名の子供たちが出席し、多いに盛り上がった。本番の『土とあそぼう』はTさんグループにも参加していただき楽しいひと時を過ごした。

とができました。この催しにはグループわも全面的に支援。21日から8日間にわたって46人、延べ120人がバザー提供品の荷分け、値付け、梱包、展示、販売などのお手伝いをしました。主催者の「ひょうご子どもと家庭福祉財団」からは、グループわと協力者46人に丁寧な謝意が寄せられました。（福祉部会）

### 900人を魅了、コーロ演奏会

混声合唱団コーロの第6回定期演奏会が10月20日、神戸文化・中ホールで行われ、のびやかな歌声で満員の聴衆を魅了しました。今回は男声合唱団との合同演奏も実現、多彩なプログラムが組まれました。モーツァルトのミサ曲、「赤とんぼ」、組曲「旅」、ショパンのピアノ曲独奏、男声合唱「Believe」など20曲。圧巻は最後の全員合唱。双方の180人が舞台上に勢ぞろい、「大地讃頌」を高らかに歌いあげると、客席は興奮と感動の渦。拍手喝采が鳴り止みません。聴衆アンケートでは「すばらしい合唱。同年代の私たちの誇りです」「元気をもらい、共感しました」といったコメントが多かったそうです。世話役の桑原浩さんは「男声合唱団とは、創設いらい初めての交流。皆さまに喜んでいただけて嬉しい限りです。次回も合同演奏ができれば」と意欲的でした。

## WA からのお知らせ

### 「子供との接し方」講演

1月18日のジョイラックデーに「子供との接し方」のテーマでスキルアップ講座（わ主催）があります。学習室1.2で午前10時30分～12時。講師は神戸常盤大の野尻紀恵先生。今の子どもたちの考え方、行動パターン、ニーズなど学習支援活動・イベント企画に役立つ内容です。学習支援登録者や興味のある方の聴講を歓迎します。入場無料。

**電話相談スタッフ募集** 当日会場では、わ本部業務（いじめ・虐待の電話相談、一の谷プラザの管理）の紹介とスタッフ募集を行ないます。

**わ 会費の納入を** グループわの継続会員の方は、来年度分の会費1500円の納入をお願いします。会費は、ボランティア保険、区会・部会助成金、情報誌発送代に使われます。期限は3月19日まで。振込用紙は、「ぎやらりー」53号をお届けする封筒に入っていますが、サークルでまとめて、わの事務所に直接お持ちいただければ助かります。

### 学園祭から わ に3万円の寄付

学園祭実行委員会から「グループわの活動に役立ててほしい」と、このほど、3万円の寄付がありました。10月に開催された学園祭のバザー収益などの一部で、寄付は毎年続けられており、グループわでは、パソコン講座の費用などに充てています。中村彰秀委員長には西田理事長から「大切に遣わせていただきます」と謝意が伝えられました。

### わ への入会をお待ちします

グループわへの入会受け付けは、1月25日から2月8日まで行います。18日のジョイラックディにグループわの説明会、25日には卒業生を対象に映像を使ったプレゼンテーションを開催。25日からはふれあいホール（ロビー）で、ブースを設けて勧誘、受け付けを行います。会員の皆さまも、ボランティアに関心のある方に声掛けをお願いします。

ぎやらりー広報委員（1月7日現在、敬称略）

部会・区会の情報は広報委員までお知らせください。

【部会】柳川瀬淳一（国際）茅中英一（環境）寄藤忠彦（文化）岸田富雄（いきがい）【区会】久保正志（中央）大掛敏夫（兵庫）徳原尚世（北）細野恵久（須磨）秋山雄一（垂水）水野俊夫（西）【施設など】山口俊雄（未来館）【一般】宮里寿子（北）堺寿代（西）宮城智子（兵庫）胤艸武宏（北）

わのHP更新をお手伝いくださる方、ご連絡ください。

わ のメルアド=わ本部 group\_wa@wa-net.jp

## つぶやき

### おバカは賢い!?

最近のテレビは制作費圧縮のためか芸能人によるクイズ番組がやたらに多い。見ていて幾分気になるのは、“おバカキャラ”として珍解答を連発しウケを狙うなんと  
も恥晒しなタレントの多いことか！ タレントとは元来“才能”の意味ではなかっただろうか。

私たちがボランティアに出向いている学校でも、そのパターンを真似てか、故意にバカっぽく振舞う小学生が結構目につく。お笑いの影響であろうが、落語や漫才は作者による緻密な計算に基づいて醸し出されるレベルの高い笑いであり、その質は次元が異なる。場の雰囲気盛り上げるからか、そのような子の方が成績の良い知的な子よりも女の子にモテるのだそう。

浮沈の激しい芸能界での生存競争は極めて熾烈と言われるが、相応に自身の生き残りのスベ（自分の売り）をわきまえているのは「バカでなく本当は賢いのかな？」と思えてくるから不思議である。気がつかないうちに世のなか（常識が）昔と変わってきているのであろうか。

（生環14・東本孝次）

## 編集後記

この秋は、ことのほか紅葉が鮮やかでした。10月に気温の差が激しかったため、といわれています。京都のお寺、有馬温泉、六甲山麓、黄葉に輝くしあわせの村。自然との触れあいを求め、わ では探鳥会やスポーツ、森林浴などの催しを実施。多くの方に楽しんでもらうことができました。「やってよかった。参加してよかった」といわれるイベントとは？ 担当者3人が1年をふりかえって大いに語り合いました。（2・3面に座談会）

ちょっと変わった本が170万部もの大ベストセラーになっています。『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの本を読んだら』。ドラッカーの組織論を勉強し、野球部の絆を強め、ついに甲子園出場を果たす話です。本の趣旨を敷衍すれば、グループわ は「子供たちやお年寄りに感動を与える組織」とでもいえるでしょうか。ボランティアは良い仲間があつてこそ、楽しく活動できます。わ の入会受け付けも始まります。新しい出会いにチャレンジしてみませんか。（編集担当・南形徹）



情報ぎやらりー wa\_gallery@wa-net.jp



## グループわ 1月～3月のイベントガイド

開催日時	開催場所	テーマと内容	アクセス 問い合わせ
1月23日(日) 10:00 - 14:00		手づくり和風で凧あげをしよう (希望者)	JR「須磨駅」徒歩12分
	須磨一の谷プラザ	須磨海岸で凧あげを楽しもう	グループわ 743-8101
2月8日(火) 11:30 - 15:30		日本伝承文化講座 (一般参加不可)	JR「須磨駅」徒歩10分
	マリスタ国際学校	伝統文化を体験し交流を図る	グループわ 743-8101
2月12日(土) 10:00 - 15:00		エコスクール (希望者)	阪神「春日野道」徒歩10分
	コムスタ神戸	省エネクッキングに挑戦	環境未来館 995-3196
2月13日(日) 10:00 - 14:00		親子で楽しむクッキング (希望者)	しあわせの村
	神戸市シルバーカレッジ	大豆から豆腐を作っておからも食べよう	グループわ 743-8101
2月19日(土) 10:00 - 15:00		地域交流と文化の祭典	しあわせの村
	神戸市シルバーカレッジ	舞台・展示発表、地域交流行事	グループわ 743-8101
2月27日(日) 10:00 - 14:00		親子で炭焼き・紙すき体験塾(希望者)	しあわせの村
	神戸市シルバーカレッジ	震災追悼竹筒の炭焼きとケナフ紙すき	グループわ 743-8101
3月6日(日) 10:00 - 14:00		春の歴史散歩会	JR「須磨駅」徒歩12分
	須磨一の谷プラザ	「一の谷合戦」講話と歴史探検	グループわ 743-8101
3月10日(木) 10:00 - 15:00		親睦ペタンク大会	しあわせの村
	しあわせの村グランド	会員の親睦大会を盛り上げよう	グループわ 743-8101
3月12(土) 10:00 - 15:00		エコスクール (希望者)	神鉄「木津駅」徒歩5分
	こうべ環境未来館	エコエネルギー体験バスツアー	環境未来館 995-3196
3月13日(日) 10:00 - 14:00		親子で楽しむクッキング (希望者)	しあわせの村
	神戸市シルバーカレッジ	手打ちうどんづくりに挑戦しよう	グループわ 743-8101
3月25日(金)、4月1日(金)、 4月5日(火) 10:00 - 13:00		シルバーふれあい男性料理教室	しあわせの村
	神戸市シルバーカレッジ	自立を目指し料理にチャレンジしよう	グループわ 743-8101

\* 希望参加は事前に問い合わせてください

### ローンボウルで市民と交流

第1回チャレンジボウル大会が11月21日、村のローンボウル場で開かれ22チーム44人が参加。小春日和のなか、熱戦が繰り広げられました。優勝は神戸グリーンクラブ(4勝・一般)、2位はカナダ会(一般)、3位は神戸タッチャーズ(KSCの0B)。グループわ関係は、宮崎・河野組が7位と健闘しました。

大会は、ローンボウルを通じて市民との交流を深めようとKSCや市内の一般クラブにも呼びかけ実現したものです。Wingの竹田宏代表は「この球技はなじみが薄いので、参加者がどうかな、



と心配していました。これだけ集まれば大成功ですね」と喜んでいました。



とびくす

勇壮に銭太鼓100人打ち

楽遊クラブの「銭太鼓100人打ち」が11月13日、村の研修館ホールで行われ、銀雅（卒業生）と楽遊クラブ（現役）、地域グループが、にぎやかに舞台交流を楽しみました。鉄人28号の歌に乗った全員の演技で幕開け。卒業生や現役のマンボ、ソーラン節。子供たちの戦艦ヤマト…。タイト姿の熟女サンバも飛び出して、100人を超す客席からは驚きの拍手喝さいが。わきにわいた3時間でした。



さわやか須磨の山歩き

見事な秋色に染まった須磨の山々を眺めながら老若男女22人が11月23日、恒例となった「須磨の山歩き」を楽しみました。地下鉄妙法寺駅をスタート、横尾山麓～奥須磨公園～多井畑厄神～清玄町～鉄拐山～妙見堂跡～一の谷プラザゴールのコース。奥須磨公園では「須磨にもいい紅葉のビューポイントがあるなあ」などと、おしゃべりしながら爽やかな秋を満喫しました。撮影・菅田忠志



小学生、大正琴にチャレンジ

撮影・宮里寿子（6面に記事）

45チームが参加、Gゴルフ大会

グループ主催のグラウンドゴルフ大会が10月14日、各地区やサークルから45チーム135人が参加して、しあわせの村球技場で開かれました。この日は、絶好のスポーツ日和。とまりが22本も出るなど男女とも好スコアが続出、27でホールアウトした上田清さんが優勝しました。上位成績は次のとおりです。【個人】 上田清27（駒ヶ林寿会B） 越前良子31（垂水小GG会B） 中野かつ子33（小束山むつみA）【団体】 こうべ老体同好101 有野コスモス109 Gゴルフ同好イ120

